

# SAC報告

2012.2.28 すばるUM2011

すばる小委員会

委員長 有本信雄

## 1. SACとは...(新ユーザーのために)

- \* Subaru Advisory Committee (すばる小委員会)
- \* 光赤外専門委員会の下部組織
- \* ほぼ毎月(8月を除く)開催
- \* すばる運用に関わるさまざまな事項、すばるの将来像を議論
- \* 現在は台内委員6名、台外委員8名で構成し、任期は2010年7月から2012年6月まで。
- \* ユーザーインターフェースとして、また観測所の諮問機関として機能

## 2. 2011年度SAC委員名簿 (敬称略)

青木和光	国立天文台・ハワイ観測所(三鷹)	
有本信雄	国立天文台・ハワイ観測所(三鷹)	委員長
臼田知史	国立天文台・ハワイ観測所	
高遠徳尚	国立天文台・ハワイ観測所	
田村元秀	国立天文台・系外惑星プロジェクト	
中村文隆	国立天文台・理論研究部	
秋山正幸	東北大学	
太田耕司	京都大学	
岡本美子	茨城大学	
川端弘治	広島大学	2011.6.21まで
菅井 肇	東大IPMU	
高田昌広	東大IPMU	
松原英雄	ISAS/JAXA	
本原顕太郎	東京大学	
吉田道利	広島大学	副委員長

## 3. 今年度のSACの活動

- \* FMOS戦略枠の審査
- \* SEEDSのデータ公開期限の検討、中間審査の計画
- \* HSC狭帯域フィルターの製作申請の承認
- \* 広報用の観測時間の確保に関する議論
- \* 外国提案の増加・制限の可能性に関する議論
- \* 冷却水漏れ事故後の「S-Cam修復要望書」の提出
- \* PFS戦略枠公募の枠組みに関する議論
- \* インテンシブ枠の有用性に関する議論
- \* GeminiとのMOU改訂案の検討
- \* 追加公募の枠組みの検討
- \* 第2回「SACに物申す」&三鷹の院生との懇談会  
(2012.1.26)

## 4. FMOS戦略枠審査の経過(1)

- \* 2010年9月の公募締切までに1件の応募があった。SACによる一次審査で「銀河進化」と「宇宙論」の2提案への分離・再提出を要請。
- \* 2011年1月、再提案された2課題がSACの一次審査を通過し、TACのサイエンス審査へ。
- \* 震災のために一時審査が延期されたが、TACによるサイエンス審査・SACによる体制作りの評価を経て「宇宙論」提案1件が仮採択された。  
(HRモード・Hバンドで2年計40夜程度)

## 5. FMOS戦略枠審査の経過(2)

- \* 2011年9月に性能確認のための5夜のプレ観測を実施。SAC(11月ヒヤリング・12月書面審査)で輝線検出効率に関する報告を受け、観測継続を承認。
- \* 2012年3月末から戦略枠6夜の観測を予定。観測状況の報告を受けた上で正式な採否(観測継続の可否)を判断する。6月末に3夜の観測予定。

## 6. FMOS戦略枠審査の反省点

- \* 装置状況が安定しない段階での戦略枠公募で、正式な採択の判断がなかなかできない。
- \* 一装置一課題という制限が分光器のサイエンスにそぐわない？
- \* オールジャパン体制を要求する戦略枠で、審査する人材の確保が難しい(TAC/SACにも提案関係者が多い)。
- \* 外国人レフェリーの否定的意見に左右されずに、観測所/SACがイニシアチブを取り、成果を上げる方向で推進すべきという意見もある。

## 7. SEEDSに関する議論

- \* データ公開期限を通常の18ヶ月から30カ月に延長(惑星探査に必須であるフォローアップ観測に1年を要するため)。
- \* 観測開始後2年で中間審査を行うことになっていた。  
2012年4月6日(金)11:00-15:00 大セミナー室で  
中間成果報告会を公開で行い、引き続きSACで  
中間審査を行う。

## 8. 広報用の観測時間の確保

すばるの成果を広く一般にアピールするため  
広報用の天体画像を積極的に撮影し、処理済み画像  
を継続的に公開していくことが重要。

観測所と広報室が連携しながら進めるが  
そのためにセメスタあたり半夜程度を  
所長裁量時間から拠出していただくことになった。

## 9. 外国提案の増加傾向に関する議論

- \* 近年外国提案(外国機関所属の外国人PIの観測提案)の採択が増加してきており、SACからTACに「外国提案は20%を目安に」と依頼してある。
- \* 採否はサイエンス・メリットで判断されるので、実際はボーダーライン上で若干考慮されるのみ。
- \* 採否はTACマターであり、サイエンス・メリットの原則は崩せない。分野ごとの調整は不要というのがSACの考え。

## 11. PFS戦略枠公募の枠組み

- \* これまでの戦略枠は一装置一課題の制限
- \* PFSのサイエンスには宇宙論・銀河考古学・銀河進化の3つの柱がある。
- \* 検討の結果、PFSは複数の科学目的のために有効な装置であり、科学的な成果を最大限に引き出してすばるの国際競争力を維持するため、**一装置一課題の制限をはずして戦略枠公募を行うこととした。**

## 12. インテンシブ枠について

- \* 戦略枠が創設されたことで、大型枠としての性格が中途半端になっているのか、応募が減っている。  
長期観測枠として機能？
- \* インテンシブ枠の下限をはずす、セメスタごとの上限をはずすなどの議論もある。(継続審議中)
- \* 創設の趣旨からして外国人PIは認めていない。  
**FMOSに限り、UK側との協定に基づき、UKからの応募を認める(最大5年)。**

## 14. 追加公募の枠組み

- \* S12A公募では、採択会議終了後に大規模なダウンタイムのキャンセルがあり、TACが急ぎよ追加採択を行う事態になった。
- \* 今後も大型装置が立ち上がる際には、同様の事態が起こりうるため、追加公募の枠組みを考えておく必要がある。
- \* 採択済み課題を公開した上で、**期間・装置限定で追加公募**を行う。公募開始から採択まで1か月程度、**SJは1ページ**。以上が原案。

## 15. 最後に

今期SACの任期終了(2012年6月)までに  
ハワイ観測所への提言書を策定する予定

=>

すばるの将来計画についてご意見のある方はお近くのSAC委員まで